



報告日: 年 月 日( )

**情報共有シート (がん化学療法)**

担当医:  
 診療科:  
 診察券番号:  
 患者氏名:  
 生年月日(西暦): 年 月 日

保険薬局  
 名称:  
 所在地:  
 電話番号:  
 FAX番号:

\*この情報を伝えることに対して患者の同意を 得た 得ていない

聞き取り日: 年 月 日( ) 担当薬剤師名(薬局):  
 対応者:本人 家族 その他( )

**Grade2以上の症状(緊急性がなく次回の診療への情報提供)について記載をお願いします。**

**【レジメン】**

経口( ) 注射( ) 経口+注射( )

**【情報共有内容】**

用法用量 有害事象 検査値異常 アドヒアランス不良 その他( )

**【検査値異常の詳細】**

白血球 HGB減少(貧血) 血小板 AST ALT T-Bil Scr K Ca Na Mg

情報提供

**<注意>**

FAXによる情報伝達は、疑義照会ではありません。  
 緊急性のあるものは通常通り電話にてお願いいたします。

# 副作用の重症度分類(川崎市立多摩病院 ver.)

CTCAE ver5.0を参考に一部改変  
※ベースラインが異常値の場合、別途に規定あり。

副作用項目		副作用の重症度			
		Grade1 (軽度)	Grade2 (中等度)	Grade3 (重度)	Grade4 (生命を脅かす)
白血球減少	/ $\mu$ L	<3300-3000	<3000-2000	<2000-1000	<1000
HGB減少(貧血)	g/dL	<13.8-10.0	<10.0-8.0	<8.0;輸血を要する	生命を脅かす; 緊急処置を要する
血小板減少	$10^4/\mu$ L	<18-7.5	<7.5-5.0	<5.0-2.5	<2.5
AST増加※	U/L	>30-90	>90-150	>150-600	600<
ALT増加※	U/L	(男)>42-126 (女)>23-69	(男)>126-210 (女)>69-115	(男)>210-840 (女)>115-460	(男)840< (女)460<
T-Bil増加※	mg/dL	>1.5-2.25	>2.25-4.5	>4.5-15	15<
クレアチニン増加	mg/dl	(男)>1.07-1.605 (女)>0.79-1.185	(男)>1.605-3.21 (女)>1.185-2.37	(男)>3.21-6.42 (女)>2.37-4.74	(男)6.42< (女)4.74<
高カリウム血症	mmol/L	>4.8-5.5	>5.5-6.0	>6.0-7.0	7.0<
低カリウム血症	mmol/L	<3.6-3.0;症状がない	<3.6-3.0;症状がある; 治療を要する	<3.0-2.5; 入院を要する	<2.5; 生命を脅かす
高カルシウム血症(補正值)	mg/dL	>10.1-11.5	>11.5-12.5;症状がある	>12.5-13.5;入院を要する	13.5<;生命を脅かす
低カルシウム血症(補正值)	mg/dL	<8.8-8.0	<8.0-7.0;症状がある	<7.0-6.0;入院を要する	<6.0;生命を脅かす
低ナトリウム血症	mmol/L	<138-130	125-129 症状がない	125-129で症状がある 120-124で症状の有無は不明	<120 生命を脅かす
低マグネシウム血症	mmol/L	<2.0-1.2	<1.2-0.9	<0.9-0.7	<0.7;生命を脅かす

副作用項目	副作用の重症度		
	Grade1 (軽度)	Grade2 (中等度)	Grade3 (重度)
食欲不振	食欲は落ちたが食生活に変化なし	体重減少・栄養失調を伴わない摂取量減少、 経口栄養剤による補充が必要	顕著な体重減少or栄養失調を伴う 経管栄養/点滴加療を要する
体重減少	ベースラインより5-<10%の減少 治療は要さない	ベースラインより10-<20%の減少 栄養補給が必要	ベースラインより $\geq$ 20%の減少 経管栄養/点滴加療を要する
悪心	吐き気あり、食生活は変化なし	吐き気あり、体重減少・栄養失調・脱水を伴わ ない食事量の減少	吐き気あり、食事・水分が殆どとれない 経管栄養/点滴加療/入院を要する
嘔吐	治療を要さない	外来での点滴加療を要する;内科的治療を要す る	経管栄養/点滴加療/入院を要する
口腔粘膜炎	症状がないor軽度の症状 食事の変更はない	経口摂取はできるが、痛み・潰瘍あり 食事の変更が必要	強い痛み 経口摂取できない
下痢	通常回数+3回以内の増加	通常回数+4-6回の増加	通常回数+7回以上の増加
下痢(ストマ)	ベースラインより排泄量の軽度増加	ベースラインより排泄量の中等度増加	ベースラインより排泄量の高度増加
便秘	不定期or間欠的な症状 下剤や食事の工夫が必要	定期的な下剤の使用、持続的な症状	下剤を使用しても便がでにくい
末梢神経障害	違和感がある	中等度の症状 身の回りのこと以外に影響あり	高度の症状 身の回りのことができない
倦怠感	だるさor元気がない	だるさor元気がない 身の回り以外のことに影響あり	だるさor元気がない 身の回りのことができない
疲労	休めば疲れがとれる	休んでも疲れがとれない 身の回り以外のことに影響あり	休んでも疲れがとれない 身の回りのこともできない
手足症候群	痛みのない皮膚の腫れ、赤身	痛みのある皮膚の赤み・腫れ・水ぶくれ・出血・爪 の著しい変形や脱落	強い痛みを伴う皮膚のはがれ・水ぶくれ・出血・た だれ・かさぶた
ざ瘡様皮疹	体表面積の<10%を占める赤み/腫 れかゆみ・痛みの有無は問わない	体表面積の10-30%を占める赤み/腫 れ 社会心理学的な影響を伴う 体表面積の>30%を占める赤み/腫れで軽度の症状 の有無は問わない	体表面積の>30%を占める赤み/腫れで中等度また は高度の症状を伴う 経口抗生剤による治療が必要
爪囲炎	爪の腫れ・赤み・はがれ	痛みを伴う爪の腫れ・赤み 内服治療が必要	外科的処置が必要 抗生剤の静脈内投与が必要